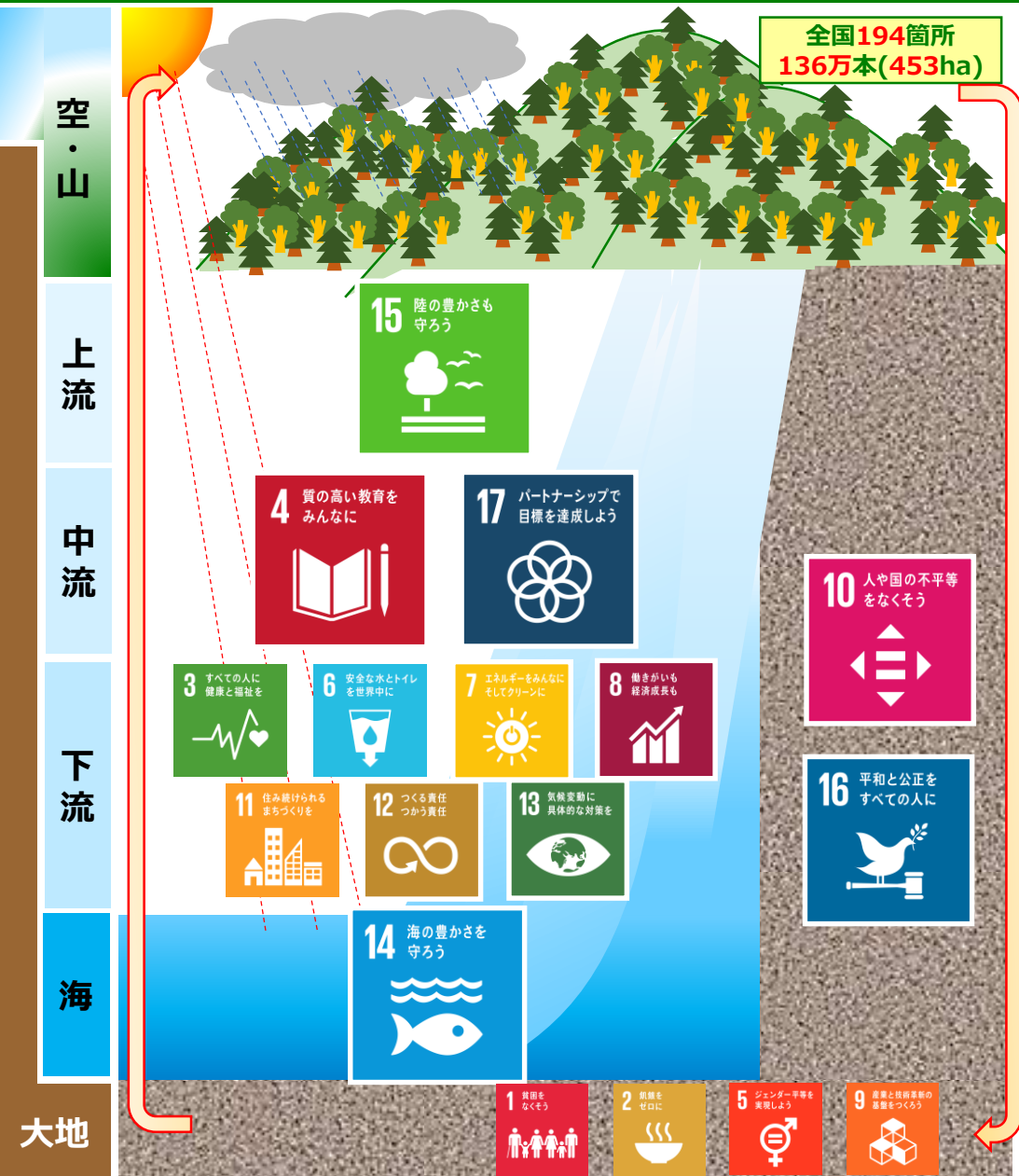


公益財団法人ニッセイ緑の財団のSDGsへの取り組み



弊財団の根幹事業である森林づくり活動に最も関連性の強い目標となる15番を上流に位置付け、そこから中流・下流・海、最後は山へ循環する自然の流れに沿って、各目標と財団事業が繋がっている様子を示しております。また大地には、全ての活動・目標の土台となる3つの目標や、それら以外に、当然のことながら取り組んでいくべき目標として位置付けた4つの目標を記載しています。

SDGsの位置付け

【上流】全国各地での森林づくり

【全事業が関連し、最も注力すべき目標】

- ・弊財団が取組む2つの根幹事業（森林づくり事業、森林を愛する人づくり事業）の全てが関連
 - － 1992年(平成4年)から26年目を迎える**全国194箇所での森林づくり**
 - － **間伐期を迎え、伐った材を有効活用**するため、イベントなどを通じ、木を使う活動に注力
 - － **適地適木を原則**とした、多様な森林づくり：広葉樹37%

【中流】上流と、下流・海・大地を繋ぐ役割

【“ニッセイの森”を直接・間接的に活用した、環境教育（ESD）等】

- ・“ニッセイの森”を活用した「ふれあい森林教室」や、「森の探検隊」、「自然観察会」を通じて、**森林施業体験や環境教育の場（ESD等）を提供**
- ・「**樹木名プレート**（“ニッセイの森”間伐材加工）」を寄贈し、設置に関わった方々が、マイツリーとして身近な自然に親しみながら、樹木に関する知識を得る機会を提供
- ・「**ニッセイ緑の環境講座**」として、新入職員研修や、外部講師をお招きしての講座を実施
- ・「**ドングリ学校**」を取組み、苗木づくりに取組んでもらうことで、森林への理解を深め、学んでいただく場を提供
- ・**パートナーシップを重視**
公益的な活動を展開するため、地域の方々と協力して事業を推進する

【下流】3.6.7.8.11.12.13【海】14

【“ニッセイの森”における森林施業や森の活用によって得られる効果】

- ・**全年齢層を対象としたイベントを展開**
“ニッセイの森”の間伐材を使ったイベント等を通じ、森の中で楽しむ要素を取り入れ、健康的な生活に繋がるよう、あらゆる年齢の方々に向け展開
- ・**“ニッセイの森”の環境貢献度**評価は年間9,602万円（2017年度：林野庁より）
 - － 環境保全（CO2固定）
 - － 山地保全（土砂流出防止）
 - － 水源涵養（貯水・水質浄化・洪水防止）
 →26年間、継続的な森林づくりを行ってきた効果。陸の豊かさへの効果だけでなく、気候変動への対策といった効果が得られている

【大地】10.16 (+1.2.5.9)

【全ての事業を支える土台的な位置づけ】

- ・**公益財団法人としての社会貢献活動の推進**
全ての人を対象とした活動を展開しており、公益性をもった業務運営を行っている